

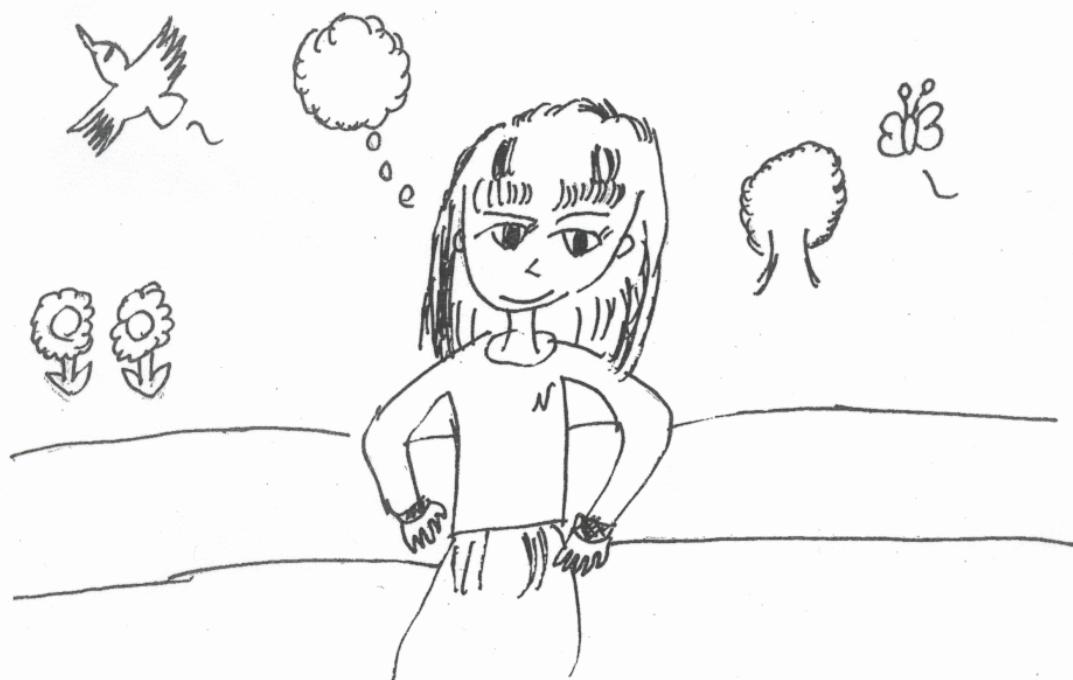
～人と人とをつなぐ情報機関紙～

人づくりネットワーク

メリーゴーランド

何気なく一日一日を過ごしている平凡な日々。

でも、そんな一日を過ごしているありがたさを感じていきたい。



今日も一日無事に過ごせたことに感謝。

2011
SPRING
Vol.

29



今回のつたえたい・活動グループ紹介

とよはしCAP

CAPってなんのこと

「こんにちは。私たちは、とよはしCAPです。私たちは、子どもが誰かから嫌なことや怖いことをされそうになったとき、何かできるかをみんなと一緒に考えるためにきました。きっと楽しい時間になると思いますよ。」こう語りかけて、小学生のためのプログラムは始まります。CAPではワークショップという参加型学習の形をとります。子供達が恐れを抱かずに楽しみながら、子どもの権利や暴力について学び、劇に参加したりしながら、どう対応したらいいかと一緒に考えていきます。

CAP（キャップ）はChild Assault Preventionの略で、「子どもへの暴力防止」という意味です。CAPプログラムは、子どもが、いじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力といった様々な暴力から自分の心と体を守るために人権教育プログラムです。色々な暴力があるけれど、暴力ってどれも人の心と体を傷つけることです。

これまでの防止教育では、被害者にならない、暴力にあわないと焦点があてられてきました。CAPは、被害者にならない、加害者にならない、傍観者にならないことをめざしていきます。家庭、学校、地域が一体となって子どもの安全と権利を守りながら、暴力のない地域をつくるために、大人が子どもを信じて聴く環境をつくっていきたいと活動をしています。

子どもの権利。「安心・安全・自由」

「権利」は自分とかけはなれたところにあるのではありません。誰もが生まれた時から持っていて、生きていくためにはどうしても必要なもの、人が人として人間らしく生きるために大切なものの、それが「権利（人権）」です。私たちは、「食べる」「トイレに行く」「寝る」「息をする」「遊ぶ」・・・いろいろな生きるための権利を持っています。これらの権利は、誰でもみんなが持っている基本的人権です。子どもも「権利」を持って生まれてきた大切な人なのです。CAPワークショップでは、子供たちに「あなたは大切な人だよ」ということを、「あなたは、安心して、自信をもって、自由に生きる権利を持っているよ」

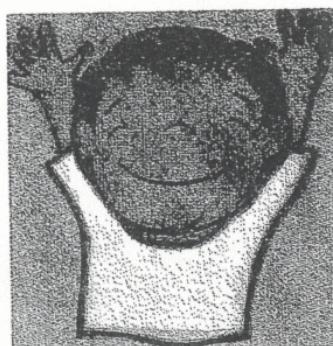
とわかりやすい言葉で伝え、子どもの人権意識を育んでいきます。この、「自分は世界でたった一人の存在なんだ」と思う気持ちが、人権意識です。「自分は大切な人」だと知っているからこそ、「大切な自分を守りたい。そのために何ができるか考えよう」と、暴力に対して大切な自分を守るための選択肢を考えることができます。

暴力にあうと誰もが不安と無力感とできる事は何もないという絶望感に陥ります。これは、「安心・自信・自由」の3つの権利が奪われているからです。暴力をうけた子どもは「安心・自信・自由」が奪われています。そして、病力を振るってしまう子どもも、実は別な場面では「安心・自信・自由」を奪われているかもしれないのです。

人はみな生まれた時から素晴らしい力を持っている、このことを出発点にしましょう。そこからスタートし、子どもが「自分の大切さ」を実感できるようにまわりのおとなが関わっていきたいですね。

持っている力を信じて（エンパワメント）

24時間おとながずっとそばにいて、子どもを守ることはとてもできません。しかしこの子もみんな、たくさんの力を持っています。けれども周りがその力を持っていることに気付かないだけなのです。子どもをおとなが守るべき弱い存在とみるのではなく、子どもの力を信じ、「あなたには〇〇ができる」という行動の選択肢と問題解決の方法と一緒に考え、子どもたちの暴力に対処する力を引き出します。これが、C A Pの基礎となるエンパワメントの理念です。外側から見れば弱く見える子供たちでも、決して無力ではありません。まずおとなは、その子どもの持っている内なる力を信じ、子どもたちに普段から「あなたは大切な人」「あなたは無力ではない」と伝えることができます。暴力に対する正しい知識や暴力にあいそうになった時に何ができるかを伝え、一緒に考えることができます。そして、「人の力を借りてもいい」というメッセージを繰り返し送り、「いつでも力になるよ」と伝えることができます。このようなおとなとの出会いが「おとなへの信頼」、「他者への信頼」を育んでいきます。



自由
じゅう



自信
じしん



安心
あんしん

「NO! GO! TELL!」

他の人の権利を奪わずに、自分の権利を守る方法として、様々な暴力に対して非常に有効な「NO! GO! TELL!」という方法があります。

NO・・・いやだという

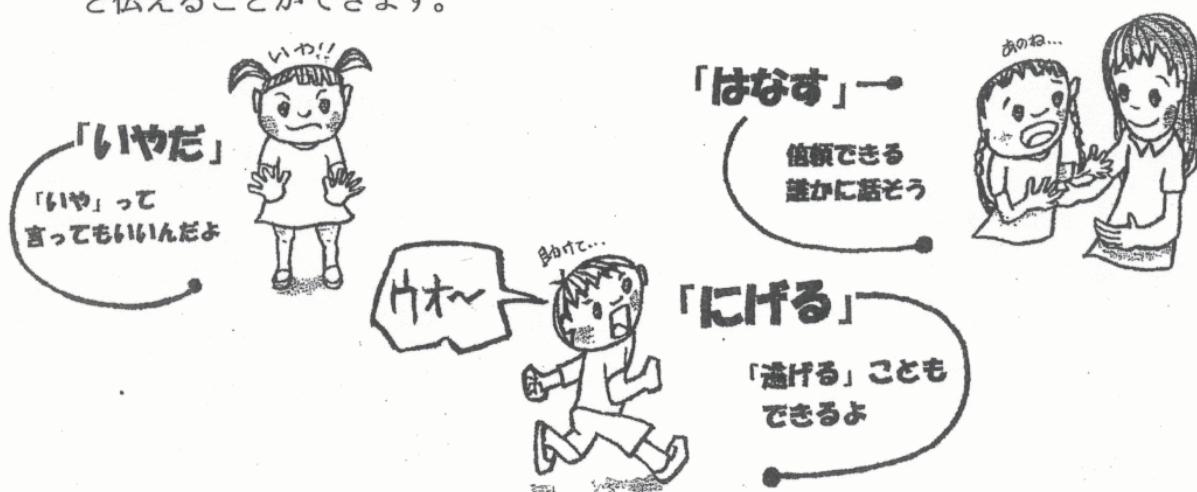
大切な自分を守るために「いやだ」ということは、決して相手を拒絶することではありません。「いやだ」と言うことは、相手との新しい関係を作り出す大切な言葉です。しかし子どもの中には「いやだって言うと嫌われる」「いやだって言うのはだめなこと」という子どもが少なくありません。大切な自分の権利を守るために、「いやだって言っていいんだよ」と伝えてあげてください。

GO・・・逃げる、その場から離れる

自分の権利を守るために逃げることは、とても勇気のある行動です。しかし、それは「弱虫、卑怯者なこと」と思っている子どもも少なくありません。ひょっとするとあなたもそう思っていないかもしれませんか？大切な自分を守るために行動を起こすことは、とても勇気のあるということだということを是非知っておいてくださいね。

TELL・・・話す、相談する

起こった出来事を話すこと、自分の気持ちを話すことは、実はとても難しいことです。「起こられるんじゃないかな…」「信じてもらえないんじゃないかな…」「告げ口とおもわれるんじゃないかな…」。子供たちは様々な思いを抱いています。ひょっとすると、何かあれば「親に話すのは当たり前」と思っていないかもしれませんか？子どもはあなたが思っている以上に、あなたのことが大好きで心配されたくない、悲しませたくないと思っています。そのために、自分が「安心・自信・自由」の権利を奪われていること、暴力を受けていることを話せないでいることも多いのです。子どもが話をするためには、おとなとの普段の関係性がとても大切です。子どもが話せるような働きかけをしていきましょう。もし子どもが何も話さなくても「あなたの様子が気になったんだ。いつでも力になるよ」と伝えることができます。



話してくれてありがとう

子どもから信頼される大人になるために大切なのは、「聴く」ことです。何があったのか事実関係を尋ねるのではなく、うわのそらで聞くのではなく、あなたの耳と心を持って、相手の様々に乱れ、相反する、人に語ってもわかつてもられないと思っている十四ものたくさんの異なった気持ちを、ただ「なんだ」「それはつらいよね」「悔しかったね」「腹立つだろうね」と言って聴く共感的傾聴です。

暴力を受けている子どもたちは、そのような聴き方をしてくれる人にしか話をしません。もし話してくれたら、「話してくれてありがとう」「あなたの話を信じるよ」と伝え、否定しないで最後まで話を聴いてください。十分に気持ちを聴いた後で、「何ができるか一緒に考えよう」「いつでも力になるよ」と伝えてください。

虐待やいじめや性被害など様々な暴力の被害を受けた子どもたちに聴くという心の手当てをする。決して難しいことではありません。人の痛みと恐怖に共感する心と、安易には同情しない姿勢と、子どもの持つ回復力への信頼と、ほんのちょっとの勇気があれば、誰でもできるはずです。つい助言してあげなければと思っている人、まず自分の口は閉じて、相手に寄り添い続けてください。助言や指導よりも、聴くことの方がはるかに力を発揮します。

腹立ちも、悔しさも、怖さも、最後までその気持ちに共感しつつ聴いてもらうだけで、驚くほど収まっていきます。暴力を受けた子どもが最も必要としているのは、自分の気持ちを認めて尊重してくれる人、自分のことを気にかけてくれるおとなとの存在です。聴いてくれるおとなに出会えたか否かがその後のその子の人生を左右する決定的な要因となるのです。

「聴く」ことはあなたが子どもにあげることのできる最大の贈り物です。

(この記事は、豊橋市教育委員会発行の「ちぎりの子ども」の家庭教育シリーズから一部を抜粋しました)

「とよはしCAP」へのお問い合わせ先
代表 鈴木 節子
TEL・FAX 0532-61-6730



☆読者会員からの投稿です。

「いじめの解決には“心には、カタチも境もない”ことを認めることから」

太田 瞳美（豊橋市在住）

私には、4人の子どもがいます。小さい時から色々な悲しい体験をしました。ある先生からは、愛情の無い言葉、数人の子供達からは、いたずら、言葉で傷つけられました。子どもと一緒に苦しんできました。鬭った事もありました。

そして気付きました。自分の子どもだけを守り続ける事は出来ない。周りの人達も幸せにならなければいじめは無くならない。いじめている子供達の方がもっと苦しんでいると。

今は、比較の社会だから誰かをターゲットにして、いじめていないと生きにくいのです。そんな自分を好きになれなくって心を閉ざしてしまうのです。

心は、見えないけれど「あの人嫌いだ」と想えば相手にも伝わってしまします。

人を自分と分けて考えるから苦しむのです。生まれたての赤ちゃんの時の心のままで人と接する事が出来たら心開かれ差別も比較もなくなると私は思います。



メリーゴーランド企画事業今年も開催します！

5周年記念事業シンポジウムから毎年初夏に開催されている企画事業ですが、今年も6月5日の日曜日、午後1時30分から、豊橋カリオンビルで開催します。

企画事業の内容については、不登校・ひきこもりを経験された若者による体験談と、支援者による講話、交流会を予定しています。

詳しくは、PRチラシを発行します。また地域の新聞、情報誌などでも紹介します。都合のつく人は是非参加してください。

読者会員以外の参加も大歓迎です！

イベント情報

三河ダルク 第5回フォーラム

～新しい生き方、希望の旅立ち～

日時：5月14日（土）13：30～16：00（開場 12：30）

場所：豊橋駅前文化ホール（豊橋駅前大通二丁目33-1、開発ビル10階）

内容：仲間の体験談、ゲストスピーカー 近藤恒夫さんの話

入場：無料 会場には専用駐車場がありませんので、公共交通機関または地下の有料駐車場を利用して下さい。

主催、お問い合わせ：NPO法人三河ダルク

TEL 0532-52-8596（受付 平日9：00～17：00）

マダム芳江 人間コンサート

シャンソン&タンゴ

日時：5月21日（土）13：00開場 13：30開演

場所：豊川市フロイデンホール（豊川市伊奈町、JR東海道本線西小坂井駅下車徒歩3分または名鉄名古屋本線伊奈駅下車徒歩6分）

チケット：前売り 1500円 当日 2000円

お問い合わせ：NPO法人ブリリアント

TEL 0532-46-0033 FAX 0532-46-0613



情報をお寄せください

この通信は、4・7・10・1月に発行します。伝えたい体験談や、団体・グループなどの活動紹介、イベント開催のお知らせ等がありましたら、世話人まで連絡ください。

ご支援・ご協力をお願いします

この通信作成および活動は皆様方の寄付によって賄われております。年間一口500円以上の活動協力費を直接世話人に渡すかもしくは下記の郵便振込口座に入金してください。また未使用切手500円以上相当分、リサイクルバザーに出品する物品等も受け付けております。

通信一部売りは100円の活動協力費になりますのでよろしくお願いします。

編集後記

新年度も間近に迫って新たな気持ちでスタートをきろうと思った矢先に、私達が考えもしなかった未曾有な災害が東北地方を中心に襲いかかりました。立て続けに起きた地震、家や財産、そして家族も失うほどの大津波、さらには原発事故による放射能汚染など、様々な悲惨な出来事が次から次へと起きました。被災地の方々は今も苦しい状況で過ごしていると思います。一日でも早い復興を願い、改めて今回被災された皆様方にお見舞い申し上げます。私も立て続けの地震速報で気が滅入ったときがありましたが、何とか新しい通信をお届けすることが出来ました。今後とも皆さんのご支援・ご協力をお願いします。（永井和子）

「人と人とをつなぐ情報機関紙 人づくりネットワーク メリーゴーランド」
通巻第29号（年4回発行）

発行■人づくりネットワーク メリーゴーランド
世話人■永井 和子 連絡先■090-1724-6948
Eメール■kazun-1976@tees.jp

☆ 活動協力費の郵便振込先

郵便振替口座 00880-0-95714

加入者名 「人づくりネットワーク メリーゴーランド」
(お一人様何口でも構いません。あなたの気持ち次第です)